

「忠魂碑」



町内で話題のことや滝上で長く
続けていることをルーツから探り、
今をお伝えするコーナー。第二回
目は本年図書館で人気の「置かれ
た場所で咲きなさい」の作者渡辺
和子さんと関係のある「滝上神社
の忠魂碑」についてです。

私の母は昭和十一年四月、十六
歳の時に父母と五人の兄弟姉妹で
高知県から滝上に開拓のため入植
したのです。

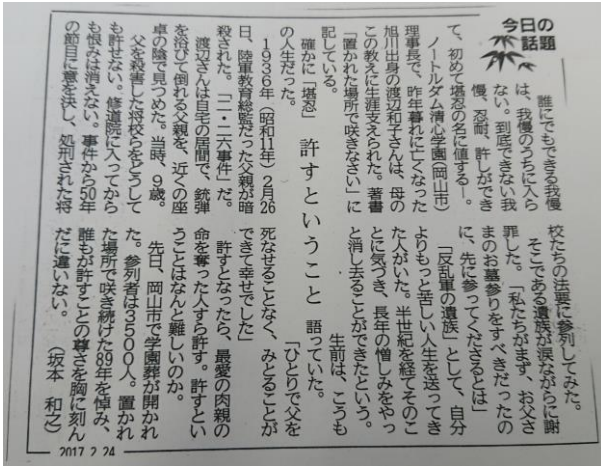
昭和十一年は「二・二六事件」
のあった年で若い将校が軍隊を率
いて首相官邸を襲撃して高橋是清
ほか五名が殉職。

このクーデターは天皇の命によ
り反乱軍として処分されています。
これは教科書で誰もが習った歴史
です。そんな不穏な空気の中、高
知県からよく北海道へ来たものだ
とずっと感心したり、その後の苦

労を見てきたので、よく頑張つて
くれたと亡くなつてから母の人生
に想いを馳せています。

戦後も七十年以上も過ぎた昨年
渡辺和子氏の「置かれた場所で咲
きなさい」が新聞やテレビで何回
か報道され、長屋町長の薦める一
冊でも紹介されていましたが、そ
の前身はともかく、渡辺和子氏の
父渡辺錠太郎氏は、二・二六事件
の犠牲者の一人なのです。

今年の道新のコラム「許すとい
うこと」も読んでみてください。



↑道新コラム「許すということ」記事写真

渡辺和子氏の事を知り父錠太郎
氏の事を調べていたら滝上神社に
渡辺錠太郎氏の描いた字による
「忠魂碑」があると聞いて、

えゝ歴史上の人物が確かに

残した足跡がこんな身近にあるこ
とを皆さんに紹介したい！と思ひ
ました。

この「忠魂碑」は、昭和三年十
一月に昭和天皇の即位を記念して
当時旭川第七師団 師団長渡辺錠
太郎中将の書による碑が建立され
ました。錠太郎氏が亡くなった昭
和十一年は陸軍教育総監（陸軍大
将）という立場だったようです。
和子氏（9歳）の目の前で父がた
った一人で護衛もなく銃殺されて
います。



忠魂碑の文字



⇒ 「陸軍中将 渡辺錠太郎書」

戦争はたくさんの人々を不幸に
陥れ、どなたも苦しい思いの中そ
のことを忘れる事無く生き抜いて
きました。そして「置かれた場所

で咲きなさい」の本が和子氏の本
となつて世の中に出てきたのでは
ないかと思ひます。今も悩みや苦
しみは形を変えて一人一人の身に
降りかかりますが、自殺なんかし
ないで生きてほしい、生きてこそ
悟るものがあるのですから。

七月十五日は戦没者追悼行事が
あります。戦争で亡くなった方々
だけではなく、私たちは先達に学
び、立派な忠魂碑の前に立つて、
その大きな碑の前で立派な文字の
示すものは「ちゃんと前を向いて
いきなさい」と言われているよう
な気がしました。それぞれが感じ
る事は違うと思ひますが、今でも
凜として佇む碑を見て何かを感じ
てほしいと思ひました。

「忠魂碑」は昭和十四年六月に
滝上神社境内に移転され、滝上神
社正殿に向かって右側にあります。
(M.M)



↑忠魂碑の祭壇の全体図